

JMC 米欧亜 IT トレンドウォッチ

2008 年 3 月 10 日

欧州編：

幅広いユーザー層への対応が戦略の鍵？：欧州プリンター市場

市場が成熟した国と発展中の国が混在する欧州・中東・アフリカ(EMEA)地域のプリンター(コピー機能を備えた製品を含む)市場では、出荷台数が堅調に伸びている。環境対策に敏感な欧州を含む同地域では、幅広いユーザー層に対応する戦略が有効のようだ。

<欧州で足場を固める日米メーカー>

2007 年の EMEA 地域におけるプリンターの出荷台数は、前年比 4.3%増の 5,260 万台になったと、2008 年 2 月 20 日付 Gartner の発表。2007 年の EMEA プリンター市場は、複数機能プリンターの需要成長が堅調で市場の牽引役となった。また、カラー対応機器の需要が前年比 34%増と堅調な伸びを見せる中、白黒のみの機器も 18%増で同市場の 85%を占めている。メーカー別出荷台数シェア・トップ 5 は、①Hewlett-Packard(HP、44.1%)、②キヤノン(15.8%)、③エプソン(12.7%)、④Lexmark(7.6%)、⑤ブラザー(6.1%)。シェア順位は、2007 年上半期(2007 年 8 月 22 日付 Gartner)と大きな変化はないが、前年比成長率では、HP(10.8%増)が手堅い戦略で不動の 1 位を確保し、日本メーカー各社(キヤノン 2.5%増、エプソン 5.5%増、ブラザー 10.0%増)も手堅く欧州での地位を固める中で、Lexmark(25.7%減)の大幅な減少が目立っている。

<明暗分かれる米系メーカー>

明暗を分けた米系メーカー、HP と Lexmark を見てみると、HP は、幅広い製品ラインアップで、さまざまなユーザーを対象としていることが窺える。2007 年上半期(2007 年 8 月 22 日付 Gartner)では、HP は、シリアル接続のインクジェット・プリンターが同社の成長を支えたとされており、こうした製品を引き続き提供する戦略で、ユーザーの信頼を勝ち取った。また、環境保護に関心を寄せる欧州のユーザーにとって、インクや本体に環境フレンドリーな技術が使われているかどうかは気になるところ。HP は、本拠地米国においても、リサイクルなど環境保護対策をアピールしており、欧州ユーザーの支持を勝ち取ったと言えるだろう。一方の Lexmark は、ローエンド製品の提供を中止したことが出荷数減少に打撃を与えたと Gartner は分析している(2008 年 2 月)。Lexmark のウェブサイト(英国、アフリカ)を見てみると、一般消費者向けには Wi-Fi 接続製品を、企業向けには多機能、カラー、大型のプリンターを前面に押し出されており、これまで同社の製品イメージであったローエンド製品は影を潜めている。Lexmark は米国においても、同様の製品戦略をとっており、2008 年 3 月 5 日付 Associated Press によれば、売上高減少、従業員カット、メキシコの工場閉鎖などが伝えられている。一方で同社のビジネス向けプリンター・シリーズが PR Wire 誌の Editor's Choice に選ばれるなどハイエンドモデル・メーカーとしての評価も徐々に高まっており、同社は過渡期を迎えたと言える。